



複刊第16号

一九六四年の

年頭におもう



副会長 吉岡 幸子

(題字 故吉岡弥生)

新年と申すにはすこし時期はずれの感もありますが、一九六四年の第一回の会誌です。から儀礼として会員の皆様にもまず新春の御祝詞を申し上げます。

同時にわが日本女医学会の発展のために一層の御協力を御願ひ申します。本年は役員改選期でもあり国際女医学会総会がノルウェーのオスロで近く開かれ、本会からも多数の代表者が出席される事が決定しております。一方海外の国際女医学会メンバーで日本を訪れる人は恐らく増えると思われればならず、更にまた十月には世紀の祭典オリンピックを担当して都はもと論議を挙げて何かと多忙な年、私共も心せわしい年だと覚悟して参るつもりです。御承知の通り日本女医学会は地方に支部があり、地の利の不便はあつても年何回かの会合をもたれる所もあり、中には小ブロックに区分して集会の便をはかられている所もあり、親睦の外に講演会、座談会、善意の意見交換等々、意義のある会合とされてはいる御報告も受けますが、待てばしれない医業のこゝとて心なくも積極的に行けないむき

もあることが判るようです。

ねがわくばこの上とも日本女医学会として実行できるような有意義なよいアイデアをお寄せ頂き度く切に御願ひ申します。前号(第十五号)四面に掲げた総会の時のアンケートもよく検討して実行に移せるものは実行し度いと念願しております。いつも日本女医学会は何か仕事をし度くても資金難でお金のかかることは一つもできないと申して参りましたが、昭和三十七年の総会の際の申し合せで御賛成頂ける方には年ごとの会費十分を万円を前納して頂く事に致しまして現在までに百五名の御協力を頂くことができました。もとよりこれを大切にしなければなりません。が、会としての面目をほどこすようなよい仕事でもあれば一部をそれに廻すことも許されるはずですが、どうぞお含みの上でよろしく御願ひ申します。オリンピックにちなんで一言述べさせて頂きます。それは日本女医学会各員諸姉にいうのではなく広く日本国の心な人々への注文です。昨秋外遊の際見てきた話です。前回のオリンピックの

開催地イタリアのローマのスタジアムは観光の際必ず案内されます。年を経た今日、ガイドが自慢するだけあつて広い競技場内も塵一つなく手入れがゆき届き、思わず深呼吸したくなりしました。幾多の選手を血をわき立てた隣のオリンピック村は現在公務員の宿舎にあてられているというところですが建造物も美しく、窓辺に干し物の影もなくそこらあたりに煙草の吸殻一本も捨ててはありませぬ。街といわず田舎に行つてもこの清潔な点は足跡を残した欧州十カ国に通ずるものだと思われました。それは掃除も行届くが、第一

捨てる人がないからです。私共がそれほど悪い事と思わないで無難作に捨てた吸殻、紙屑、果物の皮などが広場や公園道路に散乱していたら外人は驚愕するに違いありません。日本人が平気であたりを汚すのは子供をたしなめるどころではなく、むしろ親ゆずりで地方に行くほど甚だしく、列車の中など沙汰の限りです。屑物入れの普及も足らず、目の前に備えてあつても素知らぬ顔で天下の公道を汚す悪習をなおし、秋までには公德心を身につけたいものでこれが私の希望の一つです。

新しい年を迎えるのは、いくつになつても嬉しいものです。毎年毎年繰り返すお正月のことですから、慣れっこになつてもよさそうなおものですが、私は小児科医のためでしょうが、いつまでも幼い小供のような気持で、元旦を迎えるのです。

そして一生懸命働く機会を与えられたような気がいたします。そこで今年はずっと日本女医学会を有意義な

新春雑感

小野 春生

何しろ滞日期間が十数時間でしたので羽田空港までお送りし、乗りおくれそうになるまでお話をしました。米国女医学会は女医学生の奨学金を仕事のひとつとしていっていると思われました。

魅力ある会にと夢をみております。昨年デルムンド会長が理事会の帰りに日本にたちよつた時に話しておられました。が、東南アジアのある国では婦人を対象とする癌クリニックを、また他の国では働く婦人のための託児所を女医学会で始めたとうかがいました。

その後オーストラリアのストーン先生が来日の時、あちらでは各支部

皆様何とぞ御指導、御意見及び御協力をお願い致します。(三九・二・八記)

支部会だより 大阪支部

川那部喜美子

昭和三十九年も、もう早春の候となりました。温和で雨が多く、梅のほころぶのも早いことでしょう。

日本女医学会の皆様、全国のお友達、ご機嫌よろしうございます。編集部からのご指名により、少し、大阪の便りを申し上げることにいたしました。

私達の大阪は、昨年の日本女医学会総会席上で、ご承知の如く、十支部に拡大が承認されました。大はりきりで一年を過ぎました。十支部の連合体とも申すべき、大阪地区の活動母体を大阪府女医学会と呼んでおりましたが、三十八年度には、広く社会への窓を開き、隣人と親しく手を繋ぐために、当地の有刀婦人団体と交流の道を拓き、母子問題、生命を大切にする運動等々、しばしば協力の機会を持つて参りました。又当面の医療の問題については、医師会をたすけて、婦人団体との懇談会のお手伝いもいたしました。内部的には、隔月に新聞を発行し、英語会話教室を実現しました。

昨年十一月十七日(後二・七時)梅田の南京飯店において三十八年度総会を開き、地区的な問題をはじめ、十支部の強化等熱心に検討いたしました。当日は来賓として、佐藤やい会長様代理小野春生理事(国際連絡書記)様がはるばるご出席下さり、佐藤会長様並びに国際女医学会長デルムンド女史のメッセージをご披露されました。他にゲストとして、和歌山県支部代表根来すま子氏、兵庫県支部代表安田信子氏、奈良県代表山崎敏子氏、新人代表大阪大イインターン生渡辺礼子氏等をお迎

えいたしました。懇親会には各支部より余興が行われ、和気あいあいの雰囲気の中に幕を閉じました(出演者)敬称略) 第二支部 二曲合奏、会員外。第三支部 日舞、一文子春子。第四支部 日舞前田きぬゑ。第五支部 日舞 川上チヨ子(売上げ金は当女医会へ寄附)。大饗雪。第八支部 日舞、友田洋子、近江美美子。第九支部 日舞、綾仁伸子)

年末に待望の事務室を府医師会館構内に持つことができましたし、又府女医会の名称に対する一部の方々の誤解も氷解しました。

今年、いよいよ手をとり合い、足許を踏み固めて、会員の開拓と支部の充実など、確実に、一歩づつ進んでまいりたいと存じております。

新春はじめての集まりは、一月十九日午後二時より、南の大阪観光ホテルにおいて、新年会をかねて、最近中共視察旅行から帰朝された森友進先生(府医師会理事・府会議員)の視察談を伺い、多数のスライドを拝見させていただきました。七億の民を持つ隣国の大きさと、生命力のたくましさの片鱗を再認識し、感を深くしたのでございます。たが、その矢先きに、ドゴール首相の中共承認の英断のニュースを知り、胸をうたれた次第でございます。

今春の学会、夏のノルウェーの国際女医会、秋の東京オリンピック等、日本女医会の国際的交流の機会も年々多くなつてまいります。お互いに協力し合つて、内に外に、女医の立場を高め、広めてまいりませう。

皆様、日本女医会の大坂の仲間達に、今年もより一層のご支援とご鞭撻のほどをお願いいたします。

静岡県支部

森 下 う め
 菊薫る十一月二十四日(日曜日)日

本女医会静岡県支部総会を静岡市内、鶴作で開きました。川野辺静岡支部長の晴れやかな開会の言葉に続き、中尾県衛生部長の御挨拶を頂きました。当日は県出身科学者鈴木梅太郎博士の賞授与式と時刻を同じくし、その間を縫うての御出席でした。県衛生面では、今後女医の活動に関し、特別御支援頂くようお願い致しました。次いで日本女医会長佐藤やい先生から日本女医会の近況、国際女医会の最近数年の歩みについて詳しい御説明を頂きました。女医の国際的進出の気運機会の益々開かれた事を知らされ、私共卒業当時思おもつかないほどの幅広の横の広がりを感じ、わが子弟のため、又新進の若い女医の方々の発展を祈らざるを得ません。又心の片隅では、生涯のうち一度は海外に足を伸ばすことは不可ではない気をお持ちの方も多かった事と思ひます。昼食を頂きながらの自己紹介に続いて、会友石川雅子様の御主人石川公一共同通信支局長からお話伺いました。かつて警視庁詰の事件記者のキヤップをされた方で、折から二、三日前のケネディ大統領暗殺事件を中心に、当時の生のニュースを、また国内問題、暗殺に先立つ一日前の総選挙とその波紋、これに加えて身内の心安さでしょうか、政界裏話など聴かせて頂きました。御出席の皆様、一言づつ、本多市(大七、東京女卒)

浜松市に産婦人科開業、一人息子様は東邦医大で皮膚科の研究。
 仁瓶礼子(大十三、東京女卒)
 雄踏町で内小開業、御息息は立派に完成され、内外の旅行でますます見聞を広められていらつしやいます。
 伊東かほ(大十一、東京女卒)

静岡の真中で眼科開業、広い町内の中年以上女性のホープ。
 川野辺静(昭五、東京女卒)
 静岡市で小児科開業、御家族に恵ま

れ、赤ちゃん方面はもち論、県内女性の進歩、発展は先生の双肩に。
 中沢種代(大十三、東京女卒)
 沼津市産婦人科開業、ますますお若くお年令をきて、びっくりに。
 田中静江(昭十七、東京女卒)
 浜名郡で内科開業、ハウススキーは姉君に、ぜひ外遊の機会ありますようどなたかお誘い下さい。
 小笠原きよ(昭七、東京女卒)
 藤枝市で内小開業、子供さんの教育ももう一息、御主人と仕事の面はタイプアップ。至ってスムーズ。
 神崎なつ子(昭三十、名古屋市立卒)
 奥様は開業。御主人は市立病院に、御都合至つてよろしいようです。
 沢内活代(昭三十、名古屋市立卒)
 市内佐橋産婦人科医院勤務、最近静岡に來られ、思いがけなく神崎さんと顔合せ、勇気千倍。
 海崎美津子(昭六、東京女卒)
 二男二女のお母様、焼津市で小児科開業、別荘地で一人三役のお忙がしい毎日。
 伊藤紀子(昭六、東京女卒)
 焼津市で眼科開業、高血圧も巧にコントロールされ、一男二女の母上として、忙がしく御活躍。
 宮下和江(昭十、東京女卒)
 焼津市で産婦人科開業、焼津市トリオの若手としてがっちり仕事に励まれました。
 宮城島英子(昭十九、東京女卒)
 静岡市に眼科開業、子供の無いのが珠に傷、でも二人仲よく睦しく。
 竹内静香(昭十九、大阪女子医卒)
 京都熱海に、内小開業、目下独身、チャームिंगスクールの優等生。
 服部瓊江(昭十四、東京女卒)

県庁予防課勤務、結核予防法、母子福祉、栄養関係等仕事は山積、大きな予算に頭を練つて。
 杉本とし(昭十五、東邦女卒)
 昭和三十四年より沼津市保健所勤務目下予防課の仕事に全力集中。
 関本久栄(昭十五、東邦女卒)
 静岡市に耳鼻科、眼科開業、頑張り過ぎて一時健康を害しましたが、只今は以前の倍増の元気で活動中。
 中村裕子(昭和十四、東京女卒)
 藤枝市で、内科を御主人と仲よく開業、家事は母君にお任せきりで御主人のよきアシスタントとして。
 長野圭位子(昭二十六、東邦女卒)
 只今は五才を頭に三人の子供様の養育に専念。やがてこの経験から小児科医として再び活動される時のこよいエキスを吸収されます。又一方では産婦人科医であられる御主人の片腕として。
 石川雅子(昭十、東京女卒)
 静岡の郊外で眼科開業、二男一女それに共同通信社の支局長であられる御主人となかなか御多忙ですが、視野の広いことは羨ましい限り。
 伊東かほ(昭十八、東邦女卒)
 静岡市で眼科開業、クランケと御主人にはとても優しいのに、女の子供さん二人に「カミナリババア」と呼ばれるのは不思議。
 森下うめ(昭十一、東京女卒)
 静岡市郊外に眼科開業、人口密度の少ない田園地帯での眼科開業は少々不利ですが、そのうち団地の発展とともに年令に逆比例して少しは忙しくなりますね。

◎ハワイ観光団員募集◎
 主催 郵船航空サービス株式会社
 本年四月以降、観光旅行の自由化に伴い、「ハワイ十日の旅」を計画いたしました。奮つて御参加下さい。

期間 昭三九・七・一五～七・二四
 総経費 三十九万二千四百円
 航空運賃(エコノミー)、ホテル代、食事代(一日三食)、バス代、ガイド料、チップ及び当社より添乗員一名を含みます。

日程 七、一五(月) 東京発ホノルル着
 七、一六(火) オアフ島内見学
 七、一七(水) ハワイ島コナ
 七、一八(木) 島内見学午後自由行動
 七、一九(金) 密林地帯見物
 ヒロロワイ島カフルイ
 七、二〇(土) ハワイ国立公園、イオア渓谷見物
 七、二一(日) ホノルル経由カワイ島リフエ。ワイメア浜谷見学
 七、二二(月) カイルア地区見物
 七、二三(火) 自由行動ホノルル発
 七、二四(水) 東京着

申込締切日 昭三九、五、三〇
 申込金 二万円
 申込先 東京都千代田区有楽町一〇(三信ビル内) 郵船航空サービス株式会社旅客部営業課団体係
 電話 (五九一) 七、一一一
 七、四八六

以上その他におきましてもいろいろ海外旅行を計画しております。当社団体係宛お気軽に御相談下さい。

△原稿募集△
 ◎日本女医会に対する意見・希望◎
 期日 四月十日まで
 原稿用紙四〇〇字詰三枚以上

千葉県支部

花岡 常子

大変延引致しましたが千葉県支部総会の御報告を申し上げます。

総会は十一月もなるべく早く健康書を提出直後にとの考えで第一回役員会を十月十四日に開きましたが、その直後本部より「支部長改選」をおこむようとの事であり、又大飼姉の御骨折りで講師として御交渉すつた小野春生姉の御都合もあつて十一月二十四日に開く事ができました。又総会に先立ち二度の集りを持ちました。一つは、地元でありながら大変迂闊な事で申訳なく思うのは千葉県医学部御出身の方々におよびかけしなかつた事であり、之は田那村姉の御骨折りで第一回卒業生窪田淑子姉にお目にかかる機会を得て、会の状況をお話して御入会をお

日本女医史書評

科学雑誌 自然

中央公論 1963・7月号より

日本の女性科学技術者のなかでは、女医のしめる比率が圧倒的にたかい。ソ連では医者の半数以上は女医である。こんな点から考えて、女性解放のおくれていた日本で、女医が登場してくるのどんな困難があつたかは興味深いテーマである。この要望に応じてくれたのが本書である。

構成は序章、女医神話、第一章、神意とシャマン、第二〜五章が江戸、明治、大正、昭和篇であり、各時代に活躍した女医の生涯に焦点がおかれている。

すすめ致しました。窪田姉、昭和二十九年御卒業で現在は国立千葉病院眼科に籍をおかれ、一児のお母様ですが、社会的にもよいお仕事をしておられ、学校を離れて初めて日本女医学会のような集りの必要を希望されたといわれ、ともかく総会御出席を約して下さいました。

又一つは、次期支部長については二三年前よりの花岡辞退のお願いがいれられなかった関係で総会前の十一月十六日に再度の役員会を市川市双葉別館で開いて戴き話し合いました。この会には市川市の寺島姉、田島姉の御斡旋で一度でも多くお目にかかれればそれだけ心も通じ合い、話しあえば電話などでつくされぬ事も運ぶものをつくづく感じ、感謝致したのは年をとつたせいばかりとも思いませんでした。

総会はこの四月に新しく民衆駅として完成した千葉駅ビルの日本堂宴会場とありあげられている女医は、江戸篇(野中腕、シーボルトの娘、柿本いね子)、明治篇(荻野吟子、吉岡弥生、生沢クノ、高橋瑞子、本多銚子)、大正篇(野吟子、吉岡弥生)、昭和篇(吉岡弥生)などである。特に明治がくわしいのは、現代の女医の先人が奮闘して、はじめて女医の地位を確立した時代なので、当然なことであろう。吉岡弥生に大半のページをさいているのも、女医の教育の先駆者であり、大成者であることを考えると、適切であろう。このほかに、明治篇に長門谷洋治氏の研究をもとにした女子医学留學生の記事がのつている。資料としては、「吉岡弥生伝」(神崎清)、「吉岡弥生」(高見君恵)の延長とみられる点が多いが他の女子医学学校についても一応ふれられてある。個々の女医の生涯は割合くわしく紹介されており、読物としては面白いが、女医が技術者としてどんな問

で開き、お酒の少ない会でサービスはあまりよいとはいえませんでした。がすべて新しく気持よく、又どこからかたど下さる方に足場がよくてよかつたと思ひます。出席は連休がたつたよううで人数が減り二十一名となりました。が、御到着第一番の小野春生姉をお迎えしての総会は大変活気に満ちたよい集まりでございました。小野姉が御元気に、誘導されたごとくに自己紹介なども各々の考えをそれぞれにかなり進んだ気持の御発表の連続で、頼もしく思つたり勇気づけられたり致しました。

小野姉の各国女医の活躍ぶり、ことに奉仕の仕事の誠に尊いものである事を改めて考えお伺い致しました。私共が十年以上も関係しているロータリークラブなど奉仕の精神がモットーなのに、醜金以外は家族など赤い羽根の街頭募金が関の山で歯がゆい思いを致し、題をかかえていたか、あまり言及されていらない。また、女医の誕生、活動の周辺、背景のとりあつかいに一貫性が欠けており、いままでの伝記物の限界にとどまっています。これは執筆者及び女医会の過去のすべてを肯定する史観と無関係ではない。

(A五―三二八ページ) 千共 九百円

コロンビア大学へ日本女医史書贈 先般ハーバード大学及びオーストラリアヤナショナルユニバシティより本書の依頼がありましたので、贈呈致しました。

今更更にコロンビア大学からも発注あり一冊寄贈いたしました。女医史がわずか残つておりますので、御希望の方はお早目に本部までお申し込み下さい。



しておりますが、小野姉のお話の感激をあの日限りでなしに持ちつづけ、手近な事で何かお役に立つ事をしたいものと存じました。皆様もこのように感じられた事と信じます。

当役員改選については種々のお申出もありませんでした。役員会の案の通りに御賛成を得ました。

支部長 犬飼美代姉
副支部長 田島喜美子姉
竹内神奈子姉

他に評議員、会計などそれぞれ決定致し、花岡の考えで前記窪田姉の御入会を評議員として御骨折り願うことに皆様より御賛成を得ておねがい致しました。花岡は顧問をお任せ下され一度に十年も年をとつたように思われま

た。正式には発会当時昭和三十三年の支部会定款の改正をしなくては顧問の席、評議員の増加もできないわけでございますが、これは次期役員の方々にゆつくり案を練つていただく事としてお許しを戴きました。

私事にわたりおそれいりますが、花岡も支部会創立前の昭和二十七年、八年頃より当地の女医の親睦のためにおずかばかりつくさせていただき十年以上

役員改選について

各県各支部支部長(会則により本部役員即ち評議員になります)。を選出の上、三月末日までに本部へ御連絡下さい。任期は三十九年となっております。

選出され(六月上旬開催予定)の前に評議員会を行うことになっております。○三十八年度分までの会費未納分の請求書が同封されております。御送金下さい。なお国際女医学会準備基金にあてるため十九年前納(金壹万円)に御協力願います。

○各支部会員の慶弔事は至急本部まで御連絡下さるようお願いいたします。

会費十年分前納者氏名
鶴風会
中嶋 ふさ 加茂 雅子
至誠会
高間美さ保 香取 京子
出口 雪枝

を余りお役にも立たず過して参りましたが、その間に役員の方々からはそれぞれ親身になってお助け下され、事あることにお手伝い戴いてこまごままいりました事を心から感謝いたしております。

出席者(順不同)
小野 春生、犬飼 美代
中川ウメ子、窪田 叔子
松村あや子、寺島 良子
花岡 常子、石井 幸子
和嶺美礼子、木原 敏子
酒井その子、石橋美恵子
作田 輝子、久田 タカ
竹内神奈子、今井 千代
吉原百合枝、東野 英子
田那村恵津子、田那村敬子
本橋シズ子、久松 はる

